

教学改善事例報告書

-2025 年度と 2026 年度の授業評価アンケート分析結果・比較-

1. 概要

本学 IR 室では、授業評価アンケートの結果を「満足度」と「学習成果」の 2 軸で可視化したポートフォリオ分析を行い、2025 年度春学期のデータを使って分析結果に応じた改善案の方向性を示した。この結果を 2026 年 3 月 2 日の FD 委員会において教育職員と共有し、2026 年度春学期の授業運営に活かしてもらう取り組みを行った。同年 5 月に実施したアンケート結果をもとに効果を検証したところ、一部の授業において明確な改善が確認できた。

2. 背景・目的

授業評価アンケートの結果は、質問項目ごとの平均値を確認するだけでは、どの授業から優先的に改善に着手すべきかが見えにくいという課題があった。そこで質問項目のうち「総合的な授業満足度」と、目標達成・知識習得・学習意欲の 3 項目から成る「学習成果」を軸に、全授業を 4 つの象限に分類し、象限ごとに異なる改善の方向性を提示する仕組みを整えた。

3. 調査・分析

2025 年 5 月	2025 年度春学期 授業評価アンケートを実施
2026 年 3 月	FD 委員会にて全教育職員と分析結果を共有
2026 年 4 月	各教員が自身の担当授業の象限に応じた改善の方向性を踏まえ、授業運営を見直し
2026 年 5 月	2026 年度春学期 授業評価アンケートを実施
2026 年 7 月	2025 年度と 2026 年度の結果を分析・検証比較

4. 授業単位でみた改善状況

2025 年度と 2026 年度の両学期で継続して開講され、比較が可能な 177 の授業を対象に、象限の変化を確認した。その結果、102 の授業は象限に変化が見られなかったが、26 の授業は満足度と学習成果の少なくとも一方が低い象限から、いずれも評価が高い第 1 象限へと移行していた。なかでも、満足度と学習成果がともに低く重点的な改善を呼びかけた第 3 象限からの移行が 15 の授業と最も多く、他のどの変動パターンよりも突出していた。これは 2026 年 3 月に FD 委員会で共有した改善の方向性が、一部の授業で具体的な取り組みにつながったことを示すものと考えられる。一方で、象限に変化が見られない授業や改善が必要なものもあるため、今後も継続的な取り組みが必要である。

5. 改善事例

2025 年度に第 3 象限から 2026 年度に第 1 象限へ変化した授業の中から、履修者数の異なる授業を紹介する。比較的履修者の多い授業では、授業 A（履修者 99 名、満足度 4.04→4.24）、授業 B（履修者 22→34 名、満足度 3.95→4.41）、授業 C（履修者 34→24 名、満足度 4.00→4.38）で改善が確認された。また、履修者が少ない授業 D（履修者 4 名→5 名、満足度 4.00→4.80）、授業 E（履修者 10 名→6 名、満足度 3.00→4.17）、授業 F（履修者 1 名→2 名、満足度 2.00→4.50）でも伸びがみられた。一部の授業では履修者数が少ないものもあるため、数値が変動しやすい点には留意が必要である。